
テイルズオブファントム（完全オリジナル）

創世者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テイルズオブファントム（完全オリジナル）

【Nコード】

N5967Y

【作者名】

創世者

【あらすじ】

人々が助け合い生きる国、ラトゥール。そんな平和な国に何者かの影が迫り来る……悲しみ、怒り、憎しみ、裏切り、様々な感情が交差する中、一体誰がこの国を動かしているのか……

旅立ち（前書き）

駄文、小説初めてですが頑張ります。

旅立ち

それは10年前の事…

ラント「……………」

ラント「……………父さん?？」

ラント「……………母さん?？」

ラント「そんな……………嘘だ……………嘘だあああああ!!!!!!!!!!!!!!」

????「えっと……………どこだっけ……………」

ここは人々が助け合い生きる国ラトウール。その南東部に位置する村、マトロン。????「おーいラントー!!!!早くしろよー!!!!」

ラント「ちょっと待ってよー!!もうすぐだからー!!」

彼の名はラント・レーテン。この村に住む少年である。

ラント「ごめんごめんガイル、少し忘れ物を取りに行つてて」

ガイル「ったくよーいつまで待たせる気だ!!日が暮れちまうかと

思ったぞ」

ラント「それは言いすぎだと思っけど……」

ガイル「と、とにかく、そろそろ行くか!」

ラント「いやいや、リネルがまだだろ??」

ガイル「良いじゃねえか!! あんな暴力的でモテない奴」

リネル「誰えがぁー暴力的でモテない奴ですってえー??」

ガイル「うぉー!! リ、リネル!! いつの間に居たんだよ!!」

リネル「ごめんね、ちょっと支度に時間がかかって」

ラント「いいよ、さ、改めて出発しよう!!」

こうして、ラント、ガイル、リネルの三人の旅が始まったのである。

旅立ち（後書き）

最近寒いですが、頑張って書きたいと思います。

秘湯の町バレラ（前書き）

最近鼻詰まったり、詰まっていなかったりします。

秘湯の町バレラ

ラント達三人は、村を出て、村から北にある秘湯と呼ばれるバレラ温泉がある町、バレラに到着した。

ガイル「ひゃースツゲエな！！ここがバレラかー！！」

リネル「噂には聞いてたけど、やっぱり本物は凄いねー！！」

ガイル「来たからには早速、温泉に……ってラント、何してんだ？」

ラント「……………」

リネル「ラント??」

ラント「凄い……凄すぎるよ……………」

リネル「うわっ……どうしたのよ……ラント……」

ラント「だって凄いじゃん……こんなにも剣が揃っているんだよ……」

ガイル「う……そうだった。ラントは剣オタクだったんだ。」

この町バレラは温泉だけでなく、農業、産業が盛んであり、とても賑わっている。

リネル「ほーらラント、温泉に行くわよ」

ラント「待ってー僕の剣ー!!!」

リネルは半ば強引にラントを引っ張って行った。

ガイル「えー!!!温泉の湯がないー!!!」

リネル「本当なんですか??」

バレラ温泉店長「本当も何も湯がないからねー」

リネル「どうしたらいいんですか??」

バレラ温泉店長「この町から西にある青結晶の洞窟があるんだけど、そこにあるレイヴェンという結晶を取って来て欲しいんだよ」

ガイル「よっしゃー!!!わかったぜー!!!じゃあ行くぜー!!!」

三人は唐突ながらも、青結晶の洞窟へと向かった。

秘湯の町バレラ（後書き）

どうでしたか??コメントお願いします。

青獣の雄叫び（前書き）

バトルシーンが最悪ですが、暖かい目で見てください。

青獣の雄叫び

ラント「うわっ！！」

ガイル「大丈夫か、ラント」

リネル「この洞窟の床は滑るから気をつけてね」

ラント「うん。それにしても、本当にここは青結晶が辺り一面に広がっているんだね」

リネル「うん、確かにね……」

この洞窟は、青結晶と呼ばれる水が突然変異で結晶化した物質を作り出されている洞窟であり、その結晶からバレラの秘湯が生まれていると言われている。元々はバレラの人々が水を汲む時に使われていたが、最近魔物が住み着くようになってからはここしばらくこの洞窟に行っていないらしい。

ラント「本当に辺り一面真っ青だね。洞窟の奥まで見えるよ」

ガイル「ああ、逆に不気味だぜ……」

ラント達が奥に順調に進んでいるかと思いきや、いきなり魔物が飛び出してきた……！！

リネル「きゃあ！！これって魔物よね……」

ガイル「そうみたいだ、お前ら、修行の成果を見せる時が来たぜ！

！」

ラント「うん二人とも、行くよ!!」

戦闘開始と同時に、魔物が一気に突進してきた。前方にいるラントとガイルはそれを回避し、背後から攻撃を仕掛けた。

ガイル「うおおおお!!!!飛燕連脚!!」

ラント「はあああああ!!!!雷神剣!!」

ガイル、ラントが一気に2体の魔物を倒した。

ラント「やった!!」

ガイル「!!ラント後ろ!!」

ラント「えっ……」

リネル「任せて!!アイスニードル!!」

間一髪で3体目の魔物を倒し、一行は一息ついた。

ラント「た、助かった……ありがとうリネル」

リネル「いいわよ、これくらい。後ろは私に任せてね」

ラント「うん」

ガイル「ホントこういう時には頼りになるよな」

リネル「あれーそうかしら。他にも色々な事で役に立ってると思うけど」

ガイル「そうかあ??そうでもねえよな、なあラント」

ラント「え…ぼ、僕は別に何とも……」

リネル「よくも言ったわねえ二人ともー覚悟しなさいよ!!」

ガイル「うわあ、タ、タンマー!!」

その瞬間だった。洞窟の奥から何物かの雄叫びが鳴り響いた。

???「グウアアアアオオオン!!!!!!!!!!」

ガイル「な、何だ今の……」

リネル「何かの雄叫び……??」

ラント「何か……いる……」

その雄叫びは洞窟中に響き渡っていた……

青猷の雄叫び（後書き）

次回お楽しみに。

キャラ設定（前書き）

この設定は後々更新していきます。

キャラ設定

ラント・レーテン

年齢 16歳

身長 169cm

体重 57kg

血液型 A型

髪型 少し長めで、色は黄銅色のちよつと黄色多め

人物紹介

ラトゥールの南東部に位置する村、マトロンに住む少年。10年前にある事件が原因で両親を亡くし、この村に住む祖父母に育てられた。ガイル、リネルとはこの村に来てからの親友である。元々内気な性格で、人付き合いが苦手であったが、旅に出るのをきっかけに性格を変えた。

ガイル・アンドルフ

年齢 16歳

身長 173cm

体重 61kg

血液型 O型

髪型 短髪で、色は銀

人物紹介

ラントと一緒に、マトロンに住む少年。明るく活発的で、頭よりも体が先に動くタイプ。そんな性格なため、旅に出ようと言ったのは彼である。極度の高所恐怖症。

リネル・ハルスター

年齢 16歳

身長 164cm

体重 不明

血液型 A型

髪型 ロングで、ポニーテールにしている

人物紹介

元々はハルスター教会の一人娘であったが、ある事がきっかけで教会を出る事に。宛もないまま歩いていると、マトロンの住人に出会い、家を貸してもらった。しっかり者で困っている人を見捨てられない性格だが、自分の問題は他人に話せない。旅に出る前に魔術を少し覚えてきたらしい。

キャラ設定（後書き）

次回とつとつあの雄叫びが何なのか明らかに。

死闘（前書き）

オリジナル技が出てきます。

死闘

ガイル「マジかよ……」

リネル「この魔物は……何……」

ラント「……………」

あの雄叫びの正体を調べるために、三人が奥に進むと、そこには今まで見たことも聞いたこともない得たいの知れない魔物が仁王立ちしていた。

???「ゲウウウウ……………」

ラント「この魔物、間違いなく僕らを狙ってる」

ガイル「誰がどう見てもそうだろうな……でも下がる訳にはいかねえ!!」

三人は意を決して謎の魔物に立ち向かった……

???「ギヤアアオオオオン!!!!!!」

ラント「うわっ!!!!!!」

ガイル「クソッ、なかなか近づけねえ!!」

リネル「なら私が!!!!ウインドカッター!!!!!!」

リネルが杖を謎の魔物に向かって差し出し、風の刃を解き放った。

???「グウウウウ……………ギヤアアアオオオオン!!!!!!」

謎の魔物はその風の刃を咆哮だけで相殺した。

リネル「嘘っ……………きゃあああ!!!!!!」

ラント「リネルっ!!!!クッソー!!!!!!」

ラントは無謀にも謎の魔物に向かって急接近した。

ガイル「バカ野郎!!!!一人で突っ込む奴がいるか!!!!!!」

ラント「うおおおお!!!!!!雷神剣・双牙アア!!!!!!」

???「グウ!!!!!!」

謎の魔物は余程急な攻撃だった為か、少し後ろに仰け反った。

ガイル「奴が後ろに…………チャンスかもしれない…………喰らいやがれ!!!!!!奥義、蹴脚踏甲塵!!!!!!」

謎の複数の矢と謎の黒い影があつた魔物を切り裂いた。

???「グギヤアアアア……………」

ラント「す、すごい……………」

リネル「あの魔物を、一瞬で……………」

ガイル「あんたら……………誰だ??」

その煙の中にある二つの影にガイルが質問した。

アスノ「じゃじゃーん!! 天下無敵の弓使い、アスノ・タバルだよーん!!」

ラント「は、はあ……………」

アスノ「これからこれから、宜しくね、ラントちゃん!!」

ラント「何で僕の名前を??」

アスノ「ノンノンノン、ラントちゃんだけじゃないよー、ガイルっちとかリネル姉さんとか!!」

ガイル「俺の名前まで……………ってガイルっちってなんだよ!!」

リネル「拳げ句の果てに私は姉さん!??」

アスノ「いいじゃんいいじゃん、愛嬌って奴だよ!! それで、何で名前を知ってるかって言うのは……………」

???「アスノ、喋り過ぎだ……」

アスノ「あいたっ！！何すんのさー！！」

ハク「すまない……邪魔が入った。俺はハク。ハク・マルテスだ」

ガイル「ああ、よろしく。ところで、何で俺達の名前を知ってたんだ??」

ハク「その事だが……実は俺達は雇われの身でな、バレル温泉の店長に雇われていて、それでお前達の名前を知ったんだ」

ガイル「なるほどな……ってこんなゆっくりしてられねえ！！！とっととレイヴンを取りに行かねーと！！」

アスノ「それならもう取ったよー」

ガイル「ああ、そうか……って何ー！！！！」

ラント「こ、行動が速いね……」

ハク「お前達があゝの魔物に手こずっている間にな」

リネル「それなら早くここから出ようか」

ラント達は青結晶の洞窟を後にした……。

死闘（後書き）

この本文考えるのに2日かかった????

ヴァルハラ地方へ……………（前書き）

前回の投稿でバレラがバレルになっていました？？

ヴァルハラ地方へ……………

青結晶の洞窟を後にした一行は、再びバレラに戻ってきた。

ラント「でも、あの魔物は一体何だったんだろうね??」

リネル「確かに。私達が見たこともない魔物だったしね」

ハク「あいつは ガゼル という魔物だ。元々はある青白い色ではなく灰色だったんだが、恐らく 世界駆逐化計画 が進んでいるからかもしれないな」

ガゼル「世界駆逐化計画???」

アスノ「うーん……………簡単に言うと、何者かがこのラトゥール国の自然の希望石 アルカナ のコアをいじったからなんだって」

ガイル「なんとなくわかったんだけどよ、この希望石 アルカナ っていうのは何なんだ??」

ハク「お前達……………無知にも程があるぞ……………」

リネル「ごめん……………無知なのはガイルだけだと思う……………希望石 アルカナ って言うのは、この世界の中心であって、この自然の肥料にもなってるの。そのアルカナが誰かに操作されて、今に至るってことらしいわ」

ガイル「なるほどな……………じゃあそのアルカナを操作してる奴は何処にいるんだ??」

ハク「それが見つかれば苦勞はしない……そこで俺達はガルドを貯めるために傭兵として働いてるんだ」

ラント「あ、そうこうしてる間にバレラに着いたよ」

ガイル「よっしゃー！……早速店長の所に行こうー！」

???「……まさかあのガゼルを倒すとはな……………」

???「ご心配ありません。いずれあの少年達も私達が八つ裂きにしてさしあげます。」

???「へっ！……！テメエ一人に手柄はやるかつてのー！！！」

???「そう焦る必要はございません。いずれあの少年達とは巡り会います。それまでのご辛抱です」

???「ふむ……………よかろう……………見せてもらうぞ……………ラグナ
ロク の力を持つ少年よ……………」

店長「いやーありがとうございます!!これでまた温泉再開だよ!!」

リネル「そう言っていただけとありがたいです」

ガイル「よっしゃ！！そうと決まったら早速温泉に……」

ハク「何してる、次の目的地に行くぞ」

ガイル「は？？お前なに言ってるんだ??」

ハク「レイヴンを取ってきてやった恩返しだろう!!」

ガイル「何だよ！！レイヴンはお前達が勝手に取ってきたんだろぅが!!」

ハク「ならお前達はあのまま奴に殺されたかったのか??」

ガイル「ぐっ……」

ラント「いいよ」

ガイル「なっ……」

アスノ「うそー！！本当にー!!」

ラント「うん。だってこのまま世界を放置したら世界が無くなっちゃうんだよ。それだったら僕にも何かできる事をしたい。僕も世界を救いたい」

リネル「ラント……」

ガイル「しゃーねえーな！！この俺も参戦してやる！！」

ハク「お前だけでは役不足だ」

ガイル「んだと！！」

ハク「フツ…そうと決まればまずはこの フラント 地方から出るぞ」

ラント「何処に行くの？？」

ハク「このバレラから東にある、 ヴアルハラ 地方だ」

ヴァルハラ地方へ……………（後書き）

最初から比べるとほんの少し文能力上がったかも??

ランゲエートの誇りゝ再会ゝ（前書き）

テスト期間の為、一時投稿を中断します

ラングエートの誇り〜再会〜

一行はバレラを出て、東にある ヴアルハラ 地方に向かっていた。

アスノ「あーるーこー、あーるーこー、私はアスノー（＾Ｏ＾）」

ガイル「何でそんな元気なんだよ…」

ハク「知らん。あいつはいつもあんなだからな」

リネル「それより、あとどれくらいなの??」

ハク「ざつと見積もって昼頃に ナツメ 橋に到着するはずだ。しかしおかしいな…ここの領域は奴らの…」

???「待て!! 貴様ら!!」

ガイル「うお!! 何だよおめえら!!」

???「我々は誇り高き騎士団!! ラングエート だ!!」

ラント「ラングエート?? 確かラングエートって…」

アスノ「ねーいいでしょー!! ここを通してよー!!」

ラングエート兵「駄目だ!! ここは我々騎士団の団長、ナクラス団長が士気する領地だ!!」

ガイル「ちっ!! なら力づくで…」

ハク「どけ。俺に任せろ」

ガイル「っておい!!お前一人で大丈夫か??」

ハク「だから任せると言っている」

ラングエート兵「ごちゃごちゃと喋っている余裕があるのか!!」

ハクとガイルが長々と喋っている間に、ラングエート兵が襲いかかってきた。

ハク「フン……散れ……双竜連牙斬!!」

ラングエート兵「ぐわああああ……っ、強すぎる……」

ラングエート兵「だ、だからといってこの誇り、潰されたままでは……」

ハク「まだやるのか??」

???「……そこまでだ!!」

ハク「……誰だ??」

ラングエート兵「だ、団長……」

???「なるほど……我が部下達を一瞬で……」

ハク「あんたがコイツらの言う、ナクラス団長か??」

ナクラス「いかにも。俺がラングエート国際騎士団団長、ナクラス・ディムだ」

リネル「あれ……ナクラスって何処かで……」

ラント「ナ、ナクラス……」

ハク「ん???どうしたラント」

ナクラス「なぜ俺の名前を……まさかラン……」

ラント「やっぱりナクラスだ!!あはは、久しぶりだね!!」

ナクラス「うおっ!!ラントか!!お前いつの間にこんな所まで来てたんだ??」

ラント「いや実はね……」

ナクラス「なるほどな……ということはその希望石 アルカナを正常化させる為に旅をしているのか」

ラント「そいうことなんだ」

ガイル「って言うかまさか国際騎士団の団長とラントが親友とはな」

アスノ「凄い友達だねー」

ラント「それでさ、ちょっと厚かましいお願いなんだけど、ナクラスの所の騎士団も手伝ってくれないかなとか……」

ナクラス「むっ！！何を躊躇している！！お前と俺は親友だろう！！この俺に出来ることなら何でも言え！！」

ラント「うん！！ありがとうナクラス！！」

ナクラス「よし！！俺が直接ヴァルハラ地方にある街、ハークに支援連絡をしないとやる。お前達はこの先安心して旅を続けられればいい！！」

ハク「すまない、助かる」

ナクラス「いいって事だ。さあ、行つてこい」

ラント「うん。じゃあまた何処かで！！」

こうしてラント達は、騎士団団長ナクラスの支援もあり、次なる目的地、ハークに行くことになった。

ランゲエートの誇りゝ再会ゝ（後書き）

早くも12月です。寒いー??

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5967y/>

テイルズオブファントム（完全オリジナル）

2011年12月2日18時51分発行